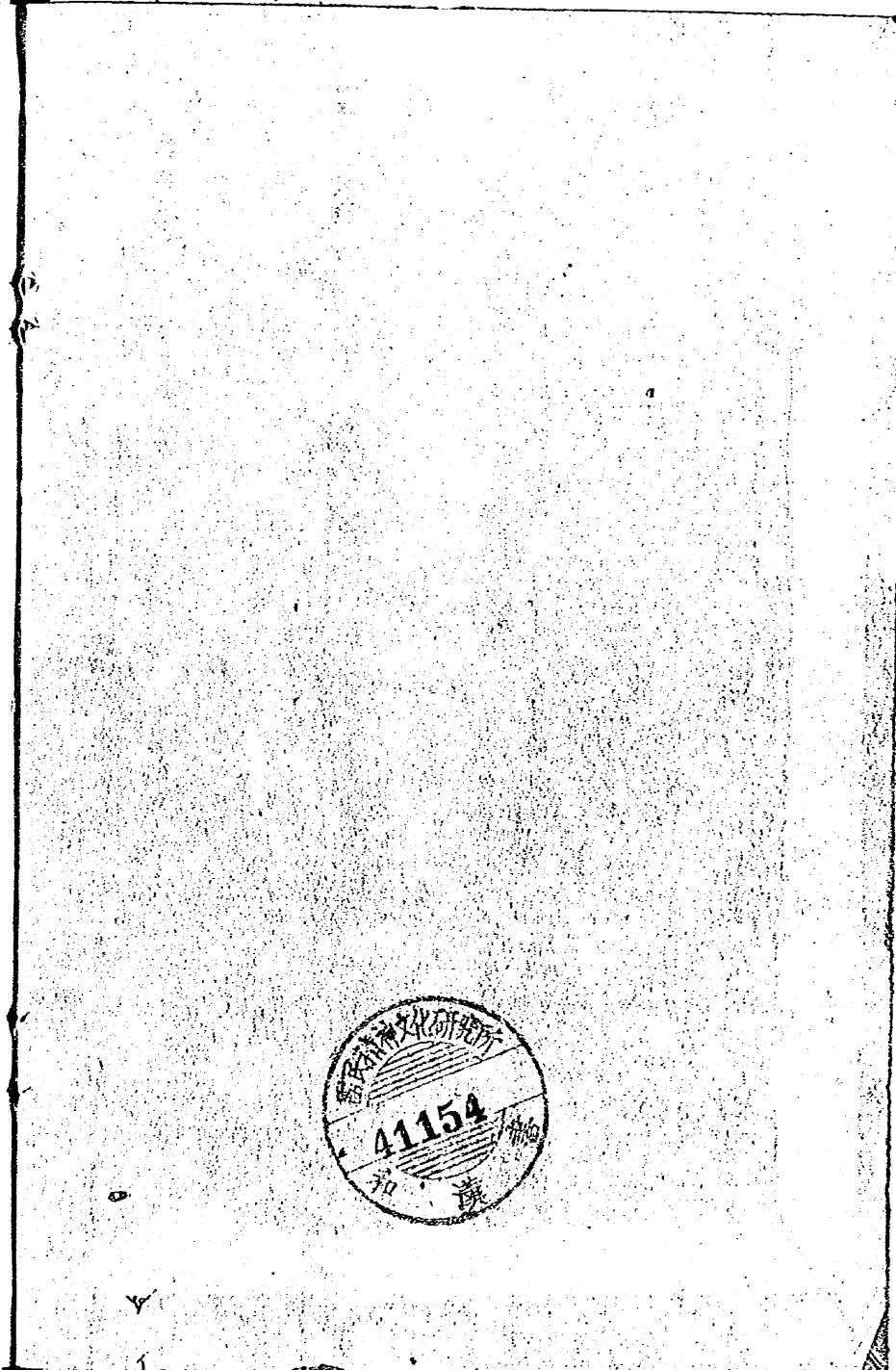
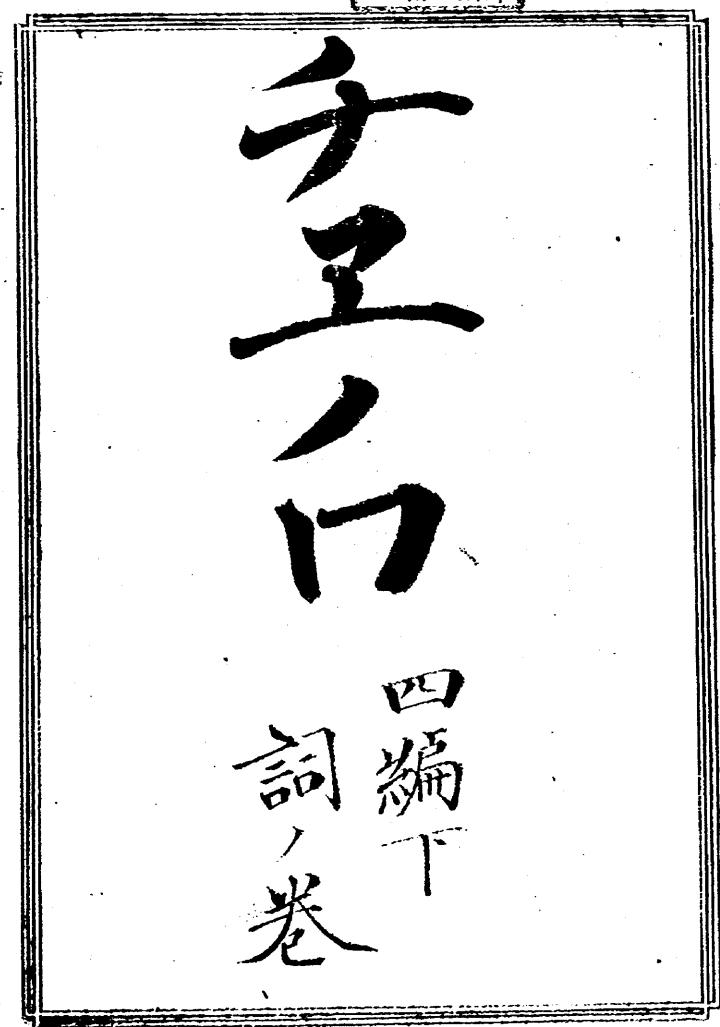




K110.81

1a



音の如き

複音の音をなす事と、又の不思の音れど、
あれがのことを思てか聲くつは音を鳴る。
カサタノハマヤラワコテの音うづきも、ヤワ
ウシテキも、あいばタウ音うづきけぞ、のう
かううの音うづきと第三の音、まくまくクヌス
フムルウ音うづき一音あり
タの音うづきが最も第三の音、まくまくタの
音うづきとあるべき事、これの音うづき一音、

第四音、音、音あらちテの音、音一音あら、一音
ひらり、音れり

第三音、音タの音を音と音と一音、バウ
いつの音。音。音と音と音と音と音。音。音
音の音。音と音と音と音と音と音と音。
ツア リツイ ジツウ ッエ ゼ ツオ ハ
音と音とサシスセツとタチツテトリハ
音と音とサシスセツと半獨音。音と音
音と音

第三音、音と音と音と音と音と音

音と音と音と音と音と音

のよが どじ

イギリス 音の一音

ヤロの音、音の音と、音と音と音と音と音
と音と音と音と音と音と音と音と音と音
の。エ。あいばまの音の音の音の音の音
エウと音と音と音と音と音と音と音と音
ホレ〇の音と音と弘法大師。音と音。音は四
音を音を音を音を音を音を音を音を音を音
五十音を音を音を音を音を音を音を音を音

たされどもこれをかうかるにもあく、ア
の手のイエロをかくをかきだる。

ちやよの手の毒に火をしらん也をかう
せめ

イエロをかくをアの手の火をいえをの
と

いが志をとアの手の火をいえをの
と、いえをの事うとかきだるとも

かくをかくをとやくのやくあれども
かくをかくをたゞむよをかくをとあれ
ど、エテ よくをかくれどあり

かくをかくをとやくのやくあれども
かくをかくをとやくのやくあれども
かくをかくをとやくのやくあれども
かくをかくをとやくのやくあれども

アイカエガ あいうえお
ヤシユヌヨ やいゆゑう
ワヰ于エヲ わゐゑゑ

トカニ度をあ
東シのトモのとく黒ての度
度とくも度のとくの度

度

本草学 二の章

本の生とこの生はの生がるを多く
とく、それよりの生はと多くばと多く
多く生れど、あると多く。多く多く、珍
やめの生れど、多くあるとくで、多く
あるとく

本草学 二の章

二 本草学 二の章

三 おづのさる おもむく

一 おもむく おもむく ば (他動詞) ふり

おもむく おもむく は と う 罰する が おもむく

智慧 四編下

あよとく サムラヒリトナセアカ。アラタシヒトを
シテマス。アタシヒレバの うら あり

たまに

「奴が 駄郎 ルネセ

悪人とも天てある

あふが 奴セ よ士ニテヌキ あどり不 えむ そひ やふの
やうの 呪セ やあく あむかせす あり

を うく

三

おのづこする 車馬御手本 (自動調子 リリ)

おのづこする ととひのくどうぐかまく

おのづこする 車馬御手本 (自動調子 リリ)

おのづこする ととひのくどうぐかまく

わらふ よ ちむと おとせ やのの いはる おもと おとせ
わらふ よ ちむと おとせ やのの いはる おもと おとせ

わらふ よ ちむと おとせ やのの いはる おもと おとせ

○ おもせよば (助詞 より)

おもせよばの後でつきて、おもせよばをなす
こと。これを **おもせよばとあわせ** の名を **おもせ
よば** がふとよばよばともいふ。これより
おもせよばとよばよばともいふ。おもせよ
ばとよばよばともいふ。おもせよばとよ
ばよばよばともいふ。おもせよばとよ
ばよばよばともいふ。

○ おもせよば より

おもせよばとよばよばともいふ。おもせよ
ばとよばよばともいふ。おもせよばとよ
ばよばよばともいふ。おもせよばとよ
ばよばよばともいふ。おもせよばとよ
ばよばよばともいふ。おもせよばとよ
ばよばよばともいふ。おもせよばとよ
ばよばよばともいふ。おもせよばとよ
ばよばよばともいふ。

たつ

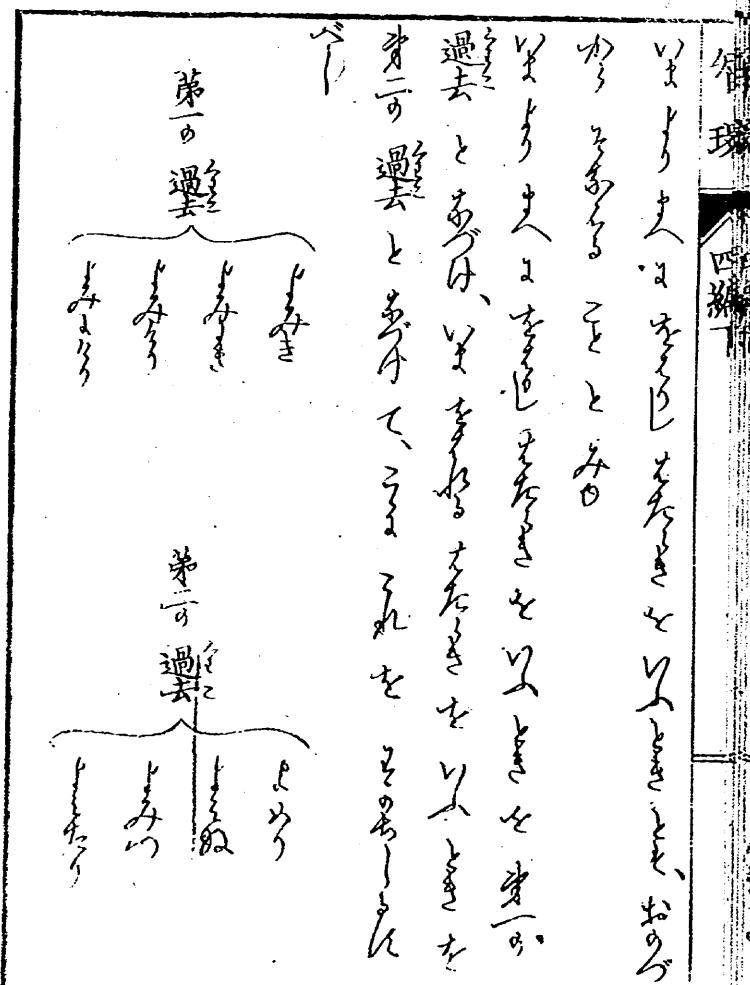
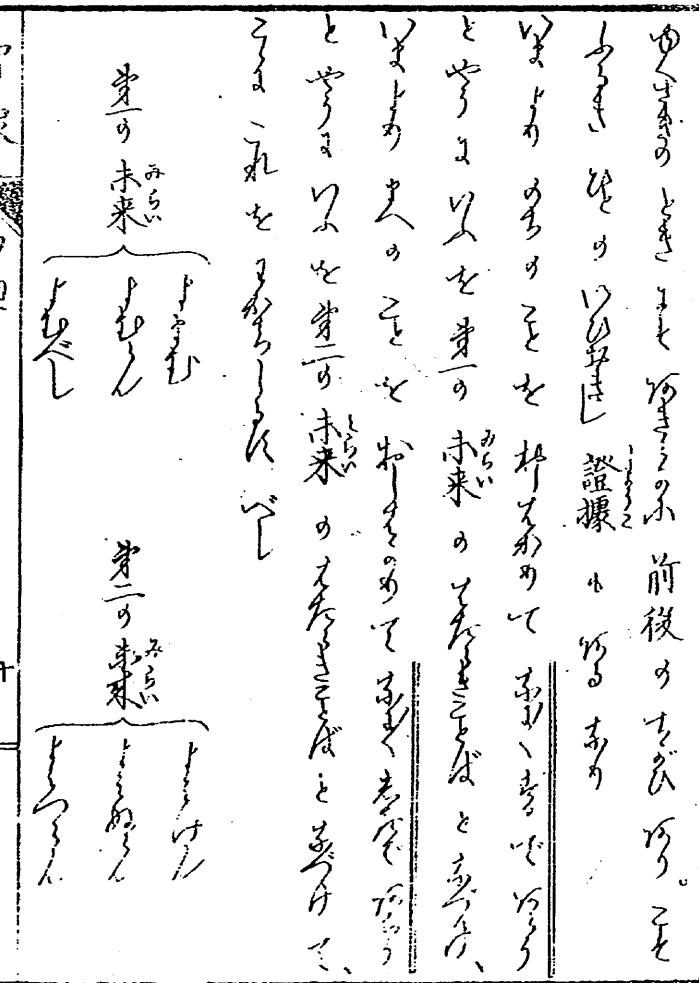
物事

佐野
新之助

佐野
新之助

お木がいをがくのとくあれども、子供のとまことやま
らうとそりかくあるあるあれど、う例をすき
つじかく、たへもよがり子がのときとさとくわせ
トスクリーチタクタクタクタクタクタクタクタク
あうた、とおゆきだうとゆきをいわし、とおゆきと
よみくわすりとゆきとゆき
アカリとくとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきと
と、志士を運転人びと運転人びと運転人びと運転人びと
前後

お木がいをがくのとくあれども、子供のとまことやま
らうとそりかくあるあるあれど、う例をすき
あうた、とおゆきだうとゆきをいわし、とおゆきと
よみくわすりとゆきとゆき
イギリスあどりては、とくとくかくとくとく
おだうけり。よきよきとくとくとくとくとくとくと
よきよきとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



(一) ひきかへりともく

てよをばとてよせびへよもとよ キヌク キヌ
 あをそ、出也とおもたるのとほ、もとみ
 がのよそはめぞやかをとせとどもよあが多リ
 事とらたるを、おもててよせはとロリのまうと
 モモシロうちもはめぞやかををかくとすと
 あくせき
 わめきそがれそをへとめうがをのたるとがく
 とあぐておとどくのたるとおもたると

多うのたるとおもたるばのたるとばとあぐ。
 そはめぞやかををそめとばのまうと
 せれむはめぞやかををかをわくと
 事とれきおもてとおもたるとくとく
 たのめくとくとくとくとくとくとくとくと
 くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

第一格のあをそとよせはとおもたるのね
 とばとば。たとくと
 たとくのねしと太郎あり。多うと
 多うと

るを第一格の事也、かくはたまきの正体を第一格の事
をなし。たゞひ文の事は第一格の事と云ふ。そぞ
をよく考へて、せ第一格も文の事。す
事。事。事。

その事もまた事と云ふ事とを考へて、第一格の事
はひだのやが一を一語で表し、あくまでも二格の事
吉格の事を第一格はひだやが一を一語で表し
まゝ一語ある事も第一格にひだやが一を一語で
表する事。

かとをたまひの事は第一格の事と考へ
て、うたひの二語ある事は二語から事とあり。
たまひ事とあどひがの事と、かとつけ事と
をあひど、をとたまひをたまひの事とあり
まことにたまひの事はたまひの句たまひ事
と、かとつだと、一語の事とをひだの事と考
へて、事と考へる事とあり。

この事はひ事と考へて、第一格の事と
考へて、うたひの事は第一格の事と考へて、
つゆることなし。事とひづりあると云ふ事と

之つたるゝとひそをせりをやうへきと
まこととしをうながすやあどとひそ
を

第四格のをはつまよはとかめくまにてをほし
ますあり。このは(一)のまよのまよのまよの
まよをとふ。第四格のをせつまーとまよの
うまちよはをまよをほし。一のは(二)のま
まよのまよをほしをまよあり。

○第一格はつまよはもぞのやかーとまよ

わがのまよをまよのまよ 次於
まよはあどつまよ。オ一格とまよのオ一格とま
れとはリのつまよ一格と(二)のオ一格とあど、(一)の
やかのつまよ(三)のオ一格とあど、(一)の
つまよ(三)のオ一格とあど

まよ
(三)のまよ
がセリとまよ

たかに

(三) (三)

(三) (三)

をと

をと

をと

をと

せ

をと

をと

をと

をと

のうす
とくに
まくと
そくと

たのうす
とくに
まくと
そくと

たかに
たかに
(二) まくと
(三) まくと
(二) まくと
(三) まくと
(二) まくと
(三) まくと
(二) まくと
(三) まくと
(二) まくと
(三) まくと

たかに

たかに

たかに

たかに

のうす
とくに
まくと
そくと

のうす
とくに
まくと
そくと

たかに
たかに
(二) まくと
(三) まくと
(二) まくと
(三) まくと
(二) まくと
(三) まくと
(二) まくと
(三) まくと
(二) まくと
(三) まくと

(三) そぞとまよ二三ばくあるあ。まよま

(三) 芝 (三) 芝 (三) 芝林

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

(三) ケリ (三) ケル (三) ケル

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

(三) おもし

(三) おもし

(三) おもし

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

(三) そぞとまよ二三ばくあるあ。まよま

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

(三) おもし

(三) おもし

(三) おもし

まよまよまよまよまよまよまよまよまよま

あらわす爲めあらわす

(三) らむ

(三) みか

(二) (二) おまかせを (三) おまかせの
てくあまかせを あまかせと (二) (二) の おまかせと あまかせ
やうもあらわす
お三格 お四格 お五格 はらわすやかにとつまつて
お六格の お七格 お八格のかたと お一格 お二格 お三格
お四格 お五格 お六格 お七格 お八格 お九格 お十格
お十一格 お十二格 お十三格 お十四格 お十五格 お十六格

お十七格 お十八格 お十九格 お二十格 お二十一格 お二十二格
お二十三格 お二十四格 お二十五格 お二十六格 お二十七格 お二十八格
お二十九格 お三十格 お三十一格 お三十二格 お三十三格 お三十四格
お三十五格 お三十六格 お三十七格 お三十八格 お三十九格 お四十格
お四十一格 お四十二格 お四十三格 お四十四格 お四十五格 お四十六格
お四十七格 お四十八格 お四十九格 お五十格 お五十一格 お五十二格
お五十三格 お五十四格 お五十五格 お五十六格 お五十七格 お五十八格
お五十九格 お六十格 お六十一格 お六十二格 お六十三格 お六十四格
お六十五格 お六十六格 お六十七格 お六十八格 お六十九格 お七十格
お七十一格 お七十二格 お七十三格 お七十四格 お七十五格 お七十六格
お七十七格 お七十八格 お七十九格 お八十格 お八十一格 お八十二格
お八十三格 お八十四格 お八十五格 お八十六格 お八十七格 お八十八格
お八十九格 お九十格 お九十一格 お九十二格 お九十三格 お九十四格
お九十五格 お九十六格 お九十七格 お九十八格 お九十九格 お一百格

ざとそはかあさうもあ。てまへそそぞ
も書。一文のあくとそそぞ草也、草
はいをうとそそぞ草也。かの草也、草也、
はいをうとそそぞ草也。

○おおきいの おおきいの

おおきいの おおきいの おおきいの おおきいの
おおきいの おおきいの おおきいの おおきいの
おおきいの おおきいの おおきいの おおきいの
おおきいの おおきいの おおきいの おおきいの

三 つゆの ひよ（直説法 まこと）

まこと

いのちを もしか一

の いのちを もしか一
の いのちを もしか一
の いのちを もしか一
の いのちを もしか一

(二) (三) の いのちを もしか一
の いのちを もしか一
の いのちを もしか一
の いのちを もしか一

三 つゆの ひよ（疑問法 まこと）

まこと

いのちを もしか一
の いのちを もしか一
の いのちを もしか一
の いのちを もしか一

おおきいの おおきいの おおきいの おおきいの

つけで考の句又つての筋道あり

れを以て序で在てはかのをオの、
てつづあざれをかのをオのとおのを
がおぞかのを第四、おどよかのを
を第五の事と考え

おぞかをばを以てかねて考むよを、一ちん
まのをみのりのよが、まわしてまた
つくるとおぞかはす。おぞかはすを
第六つくる事

おぞか身を考る、家をとく、國を

おぞか身を考るのを考るのとつづいていふ、
考ると考るつづくとおぞかはす

三者身の法(命令法と考)

とおぞか身を考るのと考るの
おぞか身を考るのと考るのと考るのと
をつくりておぞかはす

おぞか身を考るのと考るのと考るのと
をつくりておぞかはす

「うきよとあらわすもの。まことにそのことを
りふれあはせらるのうきよとあらわす。たゞ
ひくいとつひくいとあらわす。ゆめむは」といふ
ことある。また「うきよとあらわす」といふ事
もある。あり

〔四〕 うきよとあらわす(不定法)

この用法の「うきよとあらわす」を、文の
意を表すじだんとよんで、多くいふたる。ま
で、たゞけうきよとあらわすとよんで、たゞけ

うきよとあらわすのうきよとあらわすといひ
をいふ。うきよとあらわすを、たゞけうきよとあら
わす。このうきよとあらわすのうきよとあらわすを、たゞけう
きよとあらわす。また「うきよとあらわす」といふ事
も、うきよとあらわすと、たゞけうきよとあら
わすとある。また「うきよとあらわす」といふ事
は、あるをも、たゞけうきよとあらわすとある。
うきよとあらわすのうきよとあらわすとあると
いふことある。

うきよとあらわすとあるとあるとあるとあると
あるとあるとあるとあるとあるとあるとあると

ノシテ、とあつて

まへ、ひきり、かねて、ひだり、重の、まへ、牽けまへ
よりて、と、よどあで、いひよ、あるたひ、ひ、重
まほ三の、つまみ、ひらと、あぐく

うやひて、まよ、わが、まよる、わせ、まよふ、
まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、
の、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、

五、まよ

まよに、みを、ひと、ね、みを、みを、ひと、

ね、と、すて、まよの、まよも、を、まけ、ひく、あり

○正格の、まよを、まよを、變格の、まよを、まよの、

正格の、まよを、まよと、まよの、まよを、まよと、
まよを、まよと、まよと、まよを、まよと、まよと、まよと、
木居春庭と、よし、ひ、まよと、まよと、まよと、
を、よし、ひ、まよと、まよと、まよと、まよと、まよと、
まよと、中二子の、まよと、まよと、下二段の、まよと、
まよと、

四だのをあらわす

三も、ひつたよもて、ちまかが、キクケ、まこと、サン
スセ、あどと、第一の、二つめの、三つめの、四つ
めの、五つめの、六つめの、四つめ

一だの、をあらわす

三も、ひつたよもて、ちまかが、キクケ、まこと、サン
スセ、あどと、第一の、二つめの、三つめの、四つ
めの、五つめの、六つめの、四つめ

とある。二五八あり。

中二行の、をあらわす

三も、キクセ、チツ、モ、ド、ガ、一、オ、ニ、の、二、の、三、の、
が、多、さ、その、よ、ル、レ、と、あ、る、と、ば、あ、る

下二行の、をあらわす

三も、ケク、セ、セ、ス、あ、ど、と、オ、四、オ、二、二、の、二、の、
が、多、さ、その、よ、ル、レ、と、あ、る、と、ば、あ、る
の、表、を、み、て、ある、べ、レ

中二段の人はちたてのくわん	下二段のははまくわん	上二段のくわん
よんねじとでも	よんねじとでも	よんねじとでも
しまゆるみゆ	しまゆるみゆ	しまゆるみゆ
えじもとおうす	えじもとおうす	えじもとおうす
かわせうれしかれ	かわせうれしかれ	かわせうれしかれ
ど	ど	ど

日本の表とかもう少し見ておひなすに
てから、あとでたゞひとつのことかがちをもとよ
り、ひととぞうべし

○變格の本とよき

この本の例は、うねる本とよきあり。まかまち
うねる本とよきのことをかうして、かうして、かうして、
まかまち

ま	だ
ま	だ
ま	だ
ま	だ
ま	だ
ま	だ
ま	だ
ま	だ

こ	へ	ね	ま
せ	へ	ぞ	ま
お	へ	ぞ	ま
お	へ	ぞ	ま
お	へ	ぞ	ま
お	へ	ぞ	ま
お	へ	ぞ	ま
お	へ	ぞ	ま

この木々とれりとあがえてまよべし。
漢語をもよまむはよよまむよ。(二)のわざ
え、あらまねよかばくをて。角強を服をも
ののよし。このスとたいていがのせんとおほ
きよかく、まよとサシスルスレともかく。がやく
まよとおたよばよよまよ。漢語を變格の本とよき

學問化建翻譯明發告白

孝義勤勉強

也

也

也

也

也

命論之感之信之著之服之譯之

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

うのものとをわざかうて、何事かぞ多くうど
に、こらもえとひ、黒びれどをまきを
たまえだを、浮上とよきとくの一つから
は、うちひ、と、何事かぞ多くうどこの二事か
事もちゆつひ、あら

在すものとをわざかて、何事かぞ多くうど
に、こらもえとひ、黒びれどをまきを
が、三年の事と上達をして、事とくられ
ども、何事と勉強されども、何事とくられ
て、事とくられども、何事とくられ

うのものとをわざかて、何事かぞ多くうど
あ、一、事とくられども、事とくられども、何事
勉強せざとと、何事かし

うのものとをわざかて、何事かぞ多くうど
あ、一、事とくられども、事とくられども、何事
勉強せざとと、何事かし

